# 1歳児の母親は育児語・成人語をどのような形態・統語的文脈で発話するのか？

○村瀬　俊樹[1]・小林　哲生[2#]
（[1]島根大学法文学部・[2]NTT コミュニケーション科学基礎研究所）

## 目　的

1 歳児の母親は、1 つの対象に対して育児語と成人語をどの程度併用しているのか、また、育児語と成人語が使われる形態・統語的文脈に違いはみられるのかを明らかにすることが目的である。

## 方　法

**研究協力者**: 京都・奈良在住の 14、20、27 ヶ月児とその母親各 18 組。

**材料**: 21 対象の絵を用いたが、本報告では、育児語ラベルが使われる割合の高かった 6 枚の絵（犬、車、うどん、猫、ご飯、牛）に対する発話を分析した。

**手続き**: 21 対象の絵を 1 つずつモニター画面に提示し、母親に、家庭で絵本を見ているときのような感じで、子どもに話しかけてもらった。1 つの絵は 15 秒間提示された。

**ラベルの同定**: 母親の発話の内、対象に関するラベルの提供を同定し（韻律、形態統語情報による）、それを、育児語、成人語、その他に分類した。

**全フォームの同定**: 協力者の母親が、1 人でもその対象についてのラベルとして使った語と同じ音韻形態を持つ全フォームを、育児語・成人語ともに抽出した（たとえば、犬に対するラベルとして「ワンワンだよ」をある協力者が使ったとすると、すべての協力者において、「ワンッワンッ」と犬が吠えるような発話も同じ音韻形態を持つものとして抽出した）。全フォームには、ラベルも含まれている。

**形態・統語的文脈の分析**：育児語・成人語ともに、ラベル・全フォームについて、その語の後ろにどのような形態・統語的情報を伴って発話されたかを分析した。形態・統語的情報は、**単独**（形態・統語情報を伴わない、「つるつる」など）、**繋辞**（「だ」・「や」などを伴う、「つるつるだ」など）、**格関係の文節**（当該の語と格関係を持つ文節が続く、「つるつるたべた」など）、**引用**（「~って」が続く、「つるつるって」など）、その他の 5 つのカテゴリーで分類された。

## 結　果

**育児語と成人語の併用**: 1 つの絵に対して、ラベルとして育児語と成人語を併用しているか、ラベルであるかどうかは問わず育児語全フォームと成人語全フォームを併用しているかを調べた。ラベルとしての併用は、最も多い 20 ヶ月でも 27%であり、予想されたよりも少なかった。20 ヶ月から 27 ヶ月にかけて、育児語ラベルと成人語ラベルの併用が減少し、成人語ラベルのみが増加していた。全フォームの場合、14、20 ヶ月は、半数以上の絵で母親は育児語と成人語を併用していたが、27 ヶ月は成人語のみが増加する傾向が見られた（図１）。

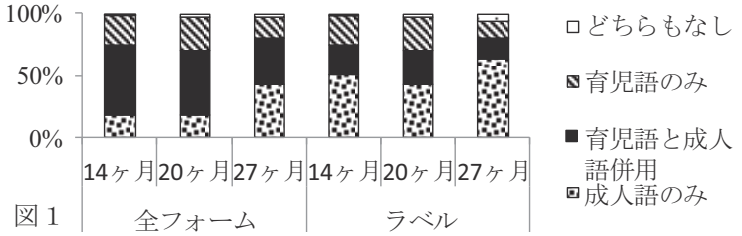

図１

**形態・統語的文脈の分析**：成人語全フォームはほとんどラベルであったので、成人語はラベルのみを分析対象とした。育児語全フォームは、成人語ラベルよりも、引用を伴うことが多かった。しかし、育児語をラベルのみに限ると、引用を伴うことはほとんどなかった（図２）。

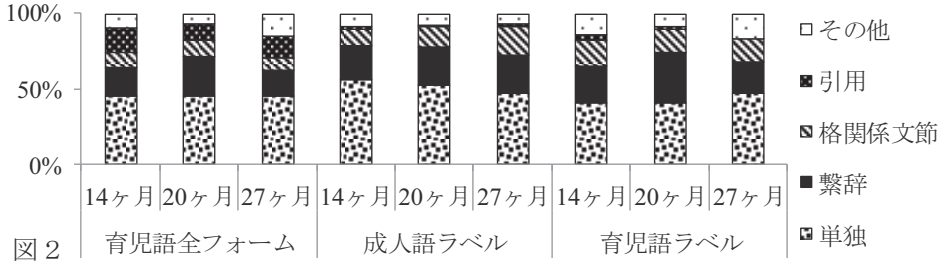

図２

## 考　察

母親は育児語と成人語を併用するが、育児語はラベル以外の機能でも多用されている。育児語全フォームは成人語と異なって「~って」を伴って発話されることも多いが、成人と同様の単独発話や繋辞を伴う発話も多数みられる。これらを 1 歳児がどう処理しているかの検討が今後の課題である。